

授業改善リーフ「第3集」

P・I・Aとは、
Proactive (主体的な)、Interactive (対話的な)、Authentic (本物の)
Learning (学び) [文部科学省パンフレットより 2021.3 発行] の頭文字
をとったもので、「主体的・対話的で深い学び」を英語で表現したもの。

P・I・A シート

～「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業改善 実践事例～
小学校 特別活動 学級活動(1) 編 ① 概要

校種・学年	小学校・5学年	教科等	特別活動 学級活動(1)
議題	「はばたけ！飛魚集会をしよう」(ア 学級や学校における生活上の諸問題の解決)		
議題について	<p>議題が選定された背景</p> <ul style="list-style-type: none"> ・宿泊体験学習、運動会、市内音楽会等、学年全体が関わり協力して活動する行事を経験した。 ・6年生が参加する市内体育大会の放課後練習を見学したことを通して、6年生へのあこがれと、6年生になるという自覚が芽生えてきた。 ・「ここまで頑張ってきた学年みんなで何かしたい」「前よりも仲良くなれた気がするから、更に仲を深められるようなお楽しみ集会がしたい」「これから6年生に向けて、みんなで更に頑張っていこうとする気持ちを高めたい」という思いが学級の中で徐々に高まり、議題として選定された。 <p>教師の指導観</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学年全体が盛り上がり楽しめる取組を考え実行することを通して、自分や友達のことを改めて深く知るとともに、学級への所属感を高めていく。 ・「3学期に行くと6年生になる上での心の準備が間に合わない」「やるなら今」という児童の意欲と、「はばたけ！飛魚集会」の名のもと、あと数か月で最上級生になるという意識付けができるような活動にしたい。 ・「学年全体で何をするか」「より楽しめて、仲が深まる活動にするためにどんな工夫をするか」「どんな役割が必要か」という3つの柱について、互いの意見を尊重し合いながら協力して計画を立て、実践できるように指導していく。 ・活動を通して互いのよさに気付き、自分たちの力でよりよい学級生活を創っていこうとする自治的能力を育てていきたい。 <p>※「飛魚」は学年だよりの題名であり、5学年の児童を表している。 ※集会の実施については、事前に他学級と連携し理解を得ている。</p>		
本時のねらい	他者の考えを認めたり受け入れたりしながら、提案理由をよりどころに折り合いをつけ、よりよい合意形成ができるようにする。		
目指す児童の姿	<ul style="list-style-type: none"> ・相手の思いを受け止めて聞いたり、相手の考え方を理解したりして、多様な意見のよさを生かして合意形成を図っている。 <p>【思・判・表】(発言・観察・学級会ノート)</p>		

事例の概要(見どころ)

- ・一人一人の心配や反対の思いを解消していくために、学級会前に意見を共有しています。自分の意見をもって話合いに参加させ、自分の意見とくらべながら友達の意見を聞かせています。選ぶ話合いではなく、皆で創り上げていくような話合いを目指しています。
- ・特別活動の学習の一層の充実を図るため有用な道具としてICTを位置付け、活用する場面を適切に選択し、教師の丁寧な指導の下で効果的に活用しています。

発行：令和8年3月
埼玉県教育局南部教育事務所
<https://www.pref.saitama.lg.jp/g2201/gakkou/pia.html>



埼玉県マスコット「さいたまっち」「コバトン」

P・I・A シート

～「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業改善 実践事例～
 小学校 特別活動 学級活動(1) 編 ② 指導展開

○本時のねらい


他者の考えを認めたり受け入れたりしながら、提案理由をよりどころに折り合いをつけ、よりよい合意形成ができるようにする。

○展 開

児童の活動計画（抜粋）

	第〇回 5年〇組学級会 活動計画 〇〇月〇〇日 (〇) 〇時間目
議題	<p>はばたけ！飛魚集会をしよう</p> <p>【授業改善の視点】事前の活動（問題の発見） 学級生活がもっとよくなることや、みんなでしたいこと、つくりたいものはないかなど、生活の中から議題を見付けさせます。</p>
提案理由	<p>林間学校や運動会、市内音楽会など、今までたくさんの行事を学級だけでなく学年みんなで協力して乗り越えてきました。また、市内体育大会に向けて取り組む6年生の学習を見学したことで、あと数か月で6年生になるという気持ちが高まりました。更に仲を深められるよう、はばたけ！飛魚集会をしたいと思ったので提案しました。この集会を通して、<u>友達のよさに気付いたり、かかわりを深めたりすることで、更に5年生の力がパワーアップするのではないかと考えました。</u> 3学期にも大きな行事があるので、<u>みんなで楽しんで</u></p> <p>【授業改善の視点】提案理由に入れる内容（例） ・(1)現状の問題点（今、こうなっている） ・(2)考えられる解決の方法（こうすることで） ・(3)解決後のイメージ（こうしたい、こうなりたい）</p> <p>： <u>しみながら仲を深めて、6年生に向けてがんばりたいと思いました。</u></p>

教師の指導計画

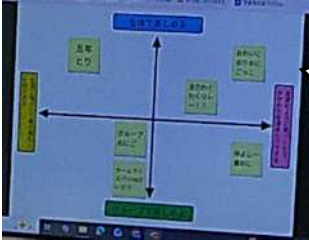
活動の計画	・指導上の留意点	◎目指す児童の姿【観点】（評価方法）
1 はじめの言葉	・ 明るい雰囲気話し合えるように笑顔で見守る。	 <p>「きまっていること」を掲示することで、場所や時間、行うゲームの数など、話し合う上での「条件」を明確にして話し合いが行われています。出し合った意見の違いが分かるように掲示物にまとめています。</p>
2 学級の歌	・ 元気に気持ちよく歌えるようにする。	
3 計画委員の紹介	・ 自分のめあてが言えるように事前に指導する。	
4 議題の確認	・ 提案者の思いや願いを全員が理解し、話し合いの指針となるようにする。	
5 提案理由の確認	・ 大切な言葉が目立つようにし、話し合いの目的を明確にする。	
6 決まっていることの確認	・ 決定している事項を全員が共通理解できるように、はっきりと述べるようにする。	

7 話し合いのめあての確認

8 先生の話

9 話し合い
話し合うこと①

「楽しみながら仲を深めるために何をするか」



話し合うこと②

「より楽しくて仲を深めるためにどんな工夫ができるか」

話し合うこと③

「どんな役割が必要か」

- ・はっきりと読み、意識づけをする。
- ・話し合いの方向性を示す。
- ・できるだけ多くの児童が発表できるように事前指導する。
- ・少人数でなら自分の意見が言える児童もいるので、場合によっては少人数で話し合う時間を設けるよう、司会に指導しておく。
- ・話し合うこと①は「くらべ合う」から始められるよう、事前に計画委員と相談して意見を絞っておく。

多様な意見を生かした合意形成を図るために、意見の違いや共通点を思考ツールに示しています。
ICT を効果的に活用し考えを深めたり、まとめたりしています。

- ・まとめるためには、「人の意見をよく聞くこと」や「意見をつなげること」が大切であることを各教科等においても指導する。
- ・児童同士の話し合いや折り合いをつけることを大切にするために、話し合いが滞ったり、流れがめあてから逸れたりするなど、司会が困った際にのみ助言をするようにする。
- ・友達の考えを認めたり受け入れたりしながら、自分の意見の理由を明確にして発表できるようにする。

黒板と ICT それぞれの利点をいかして、思考の可視化・操作化・構造化を行っています。
黒板で示すものと、ICT を効果的に活用して示すものを区別しています。

◎相手の思いを受け止めて聞いたり、相手の考え方を理解したりして、多様な意見のよさを生かして合意形成を図っている。

【思・判・表】
(発言・観察・学級会ノート)

【授業改善の視点】(くらべ合う)
解決策の話し合い

・よりよい解決方法を見付けるために、質疑応答を通して、意見の共通点や相違点を確かめたり、賛成意見や反対意見などを述べたりしながら話し合いをさせます。

【授業改善の視点】
(まとめる・決める) 解決策の決定

・いろいろな意見の違いを認め、折り合いをつけるなどして、みんなの考えをまとめ、合意形成を図らせます。



10 決まったことの確認

11 振り返り

12 先生の話

13 おわりの言葉

- ・決まったことを再確認できるように、大きな声で発表できるようにする。
- ・自己評価するとともに、友達のよかった点も相互評価できるように助言する。
- ・計画委員へのねぎらい、前回からの成長、次回への課題を伝えるとともに、実践への期待が高まるような声かけをする。
- ・実践への意欲をもつことができるように、見通しをもたせながら終わらせる。

【授業改善の視点】先生の話

・よりよく合意形成を図って話し合いができるよう、今回の学級会でよかったことや次回への課題を話します。
・司会グループへの賞賛、学級全体への実践意欲を高める声かけを行います。

【授業改善の視点】一連の学習過程を重視

・児童が、学級や学校の生活づくりを自発的、自主的に展開することが求められています。そのため、児童自ら学級や学校生活上の問題に気づき、その解決方法などについて、話し合っ合意形成を図り、協力して実践し、振り返りを通して次の課題解決へつなげていくという一連の学習過程を重視した実践となるよう指導の工夫・改善を図る必要があります。